



堆肥づくりをもっと身近に コンポスト講座

コンポスト講座が 2 月 3 日(土)につなぎ文化センターで開かれました。コンポストとは生ごみなどを微生物の働きで発酵・分解し、堆肥を作ること。講師のローカルフードサイクリング(株)代表取締役の平由以子さんは「持続可能な未来づくりのために多くの人がコンポストを簡単に取り組めるような仕組みを作っていきたい」と話していました。



↑バック型のコンポストも紹介されました

地域の精神保健福祉向上に尽力 令和 5 年度三村記念基金表彰

津奈木町精神障がい者家族会役員や水俣芦北地域精神障がい者家族会会長を務める浦口美代子さん(桜戸)が三村記念基金表彰を受賞。2 月 6 日(火)に町長への報告に来庁されました。本表彰は県内で精神保健福祉に尽力している個人や団体に贈られるもの。浦口さんは「これからもご家族や関係者と手を取り合い、精神障がいをもつ人たちの支えになっていきたい」と話していました。



↑受賞を報告した浦口さん(中央)

↓鬼に向かって必死に豆を投げる園児たち



力を合わせて鬼退治！ 津奈木保育園豆まき

2 月 2 日(金)、津奈木保育園で節分の豆まきが開かれました。和やかな雰囲気の中突然大きな鬼が出現。園児たちは勇気をふり絞り「鬼は外、福は内」の掛け声とともに豆を投げました。中には鬼の恐ろしい形相に泣き叫びながら必死に逃げ回る園児も。見事鬼を追い払った園児たちは「やったー！」と喜びの声をあげました。

↓日本の食文化について話す長野さん



環境保全と農を考える 農村環境保全セミナー

農村環境保全セミナーが 2 月 4 日(日)、つなぎ文化センターで開かれました。講師の長野克也さんは昔の生活や文化と自然との関わり、そこから分かる日本の現状や問題点、頻発する自然災害について説明。「日本の風土や文化を尊重した農場形態は、人の営みと自然の循環のバランスが保たれている。これからは人と自然が共生する社会を目指すことが重要」と話していました。

くまモン登場で大興奮 津奈木小学校サラ玉段ボール制作

1 月 30 日(火)、つなぎ文化センターで津奈木小学校の児童が作ったサラダ玉ねぎを梱包する段ボールを制作しました。今回はスペシャルゲストとしてくまモンがサプライズ登場。突然の登場に児童たちは大盛り上がりでした。くまモンは自身の絵描き歌を披露。児童たちは絵描き歌に合わせて段ボールにくまモンの絵を描きました。



↑自身の描いた絵を披露するくまモン

↓記念にくまモンとハイタッチ



↑一生懸命に絵を描く児童たち

農業の振興・活性化に貢献 熊本県農業コンクール

1 月 31 日(水)に開かれた熊本県農業コンクール大会であしきた農業協同組合津奈木青壮年部が地域農力部門で優良賞を受賞しました。同部は耕作放棄地を利用した環境保全型農業を実践。小中学生へ農産物の栽培から収穫や加工・販売などを体験させるなど食育や地域伝統食維持にも貢献しており、このような活動の実績が評価されました。



↑受賞された青壮年部の皆さん

↓パトロールをいただいた同協会南部支部の人たち



美しい町を目指して 不法投棄監視パトロール

1 月 29 日(月)、(一社)県産業資源循環協会南部支部が本町の不法投棄監視パトロールを実施しました。これは県民の生活環境の保全や福祉向上を目指し行っているもの。同協会副会長の岩村龍男さんは「私たちは県内 47 市町村と災害協定も結んでいます。パトロールをはじめとする活動などを通して皆さんが安心して生活できるようこれからも尽力してまいります」と話していました。